論文

保育者養成課程におけるオンライン授業への取り組み(2)

岡田 典子[1)]・権田 あずさ[2)]・児玉 太一[3)]

キーワード：オンライン授業，通信環境，Google Classroom，Moodle，保育者養成

要 旨

【目的】本稿では，昨年度の報告に引き続き，本学科のオンライン授業への取り組みを報告するとともに，学生及び教員への質問紙調査により，オンライン授業の現状と今後の課題を明らかにすることを目的とした。

【方法】通信環境に関する学生の実態調査に加えて，本学科に在籍する学生 133 名（１年生 67 名，２年生 66 名），教員 12 名（専任教員７名，非常勤講師５名）を対象に，オンライン授業に関する質問紙調査をそれぞれ実施した。

【結果】①今年度は Google Classroom と Moodle の２種類の LMS を運用してオンライン授業を行うことになり，学生にとって使い勝手の良い環境ではなかったことから，周到な支援が必要であった。②昨年度より，学生の自宅の通信環境は整備され，オンライン授業を受講する際に使用できる端末の所有率は高かった。③学生調査の結果から，「自分のペースで学習できる」，「何度も復習できる」といったオンライン授業のメリットを享受している学生の割合が増加した。④学生及び教員への調査結果から，今後の課題として，学生自身によるオンライン授業の提出課題の管理や，オンライン授業における学生間の交流機会の工夫への対応が求められていることが明らかになった。

Ⅰ．はじめに

2020 年度は，国内での新型コロナウイルス感染症の拡大により多くの大学でオンライン授業への切り替え等の緊急の対応が迫られ，新規感染者数が減少した時期であっても，感染対策を講じながら対面での学修機会を確保するための対応に翻弄された１年であった。2021 年３月には，高等教育局長通知「令和３年度の大学等における授業の実施と新型コロナウイルス感染症への対策等に係る留意事項について（周知）」[1)]において，学生が安心し，納得して学修できる機会・環境の確保や感染拡大の防止のための取組についての留意点が示され，各大学において 2021 年度の授業実施方針等が決定されることになった。

本稿は，2021 年度の本学科の対応とオンライン授業への取り組みを整理するとともに，本学科の学生及び教員を対象に実施したオンライン授業に関する質問紙調査の集計結果を報告し，効果的なオンライン授業実施への手掛かりを得ることを目的とするものである。

[1)2)] 山陽学園短期大学こども育成学科
[3)] 岡山県立大学保健福祉部子ども学科

Ⅱ．本学科の対応

1．1）本学および本学科の状況

新型コロナウイルスの感染拡大に伴って急遽，オンライン授業を実施することとなった昨年度は，学科内で LMS（Learning management system）を Classroom で統一し，情報発信と全ての授業の配信を行った。本学学生の所有するデバイスがスマートフォンに集中していることや，学生の PC の習熟度が不明であったこと，また，Office 365 を本格的に使用できない状況にあって，ドキュメントをはじめとする Microsoft Office に相当する Google のアプリケーションとの連携性など，学生の状況を把握した上で，学修機会の喪失が生じない環境を学科教員と協議した結果であった。

しかし，周知の通り，全国的に新型コロナウイルスをめぐる状況は日々変化しており，大学側の判断とその対応について逐次，学生に周知すること，また全学共通科目の配信の為，2020 年度途中から大学全体で Moodle に統一を図るよう年度内，大学上層部より度々の通告があった。コロナ禍において日々，対応を迫られる学生に対し素早い通知を行う為に，LMS の統一はやむを得ないものと思われたが，授業中心に使用している LMS の年度途中からの変更は，学生にとっても積み上げてきた操作方法を新たに学びなおすことを迫り，無用の混乱を生じさせることが予測された。結果的に 2020 年度については，引き続き Classroom を LMS の中心として使用することとなったが，2021 年度からは，Classroom と Moodle，２種類の LMS を運用することとなった。

Moodle については全国の大学でも運用されており，その使用について Classroom との優劣を問うものではないが，既に高校時代にオンライン授業やアクティブラーニングを，Classroom を介し経験している学生らにとっては馴染みやすい LMS であったことは学生への聞き取りにおいても判明していた。龍谷大学・高岡が「オンライン上のやりとりは，過剰な事務処理能力を学生に要求する」[2)] と指摘している通り，学生にとっては本来，学ぶべき情報に辿り着く前に，情報機器の習熟度が学びの妨げとなる状況は望ましいものではないように思われる。学生の負担を極力排する為の Classroom への統一であったが，２種の LMS に分かれたことにより，必要な授業や情報へのアクセスを隔てる障害となることが懸念された。結果的に教員にとっても，「パソコン機器の取り扱いスキルを求め，多大な時間を費やさせるだけでなく，学生にも特定の技能を求めている」[2)] との指摘にもある通り，通常のオンライン授業の作成自体，相応の時間を要していた教員へのさらなる負担の増大につながることとなったといえる。加えて，昨年度も指摘したことであるが，本学においては情報系教員があらゆるネットワーク環境の整備の中心を担っており，専門の情報系職員が不在である。その為，専任教員の一部が学科の非常勤講師や，新任教員への LMS の仕様と配信に関わる説明などのサポートの一切を一任せざるを得ない状況があった。

ただ，大学全体の情報教育環境の整備については，コロナ以降も見据え，数年をかけ増強しなければならない事案である。2021 年度からはこれまでの状況を踏まえて，学生に配布する為の資料も整いつつある現状もあり，前年までの手探りの状況からは前進しているようにも思われた。レポートなどで学生が使用できるツールとしても，Office 365 の本格的な運用開始に伴って，Word をはじめとするアプリケーションの使用が可能となった。これらの状況を踏まえ，前年度から一部内容を変更して，以下の手順で学生へのオンライン配信を行ない，資料を元にした説明と対応を行うこととなった。

2）学生対応

2020 年度は４月の初回授業直後に決定された全面的なオンライン授業実施が１ヶ月以上も継続し，郵送での ID の配布や電話・メールでの質問によって対応することとなり，入学間もない学生たちを含め，学科学生のサポートにオンライン授業担当教員は奔走することとなった。2021 年度は対面授業を中心とした授業が前提ではあったが，今後の感染状況の推移も不明であったことから，事前に諸般の対応を対面で実施できたことは幸いであったといえる。ID の配布とオンライン授業の説明は４月２日のオンライン授業の説明会時に行ったが，学生には事前に Wi-Fi 環境下で，Google Classroom と Microsoft OneDrive，Word をスマートフォンにインストールするよう４月１日に配布のプリントにおいて示した（図１）。プリントには iOS と Android のアプリケーションを速やかにインストールできるよう URL を QR コードで示し，アクセスを簡易化した。

図1 アプリについての資料

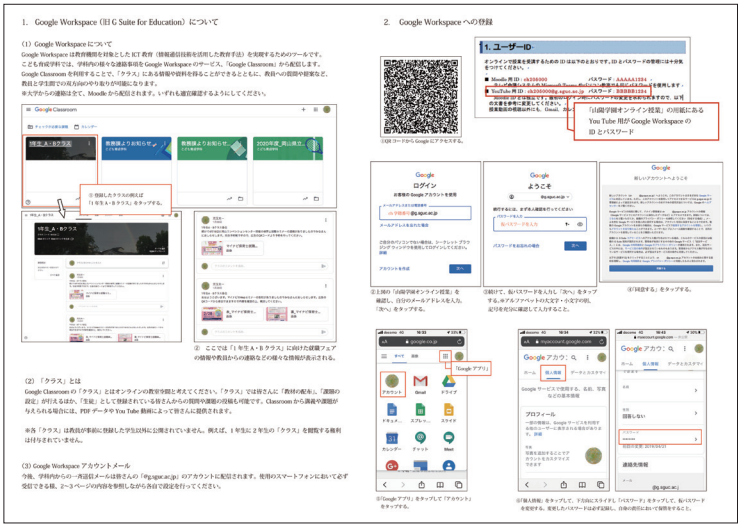

図2　Google Workspace について示した資料

具体的な手順としては，図２で示した資料の通り，「Google Workspace への登録とパスワードの再設定」，「スマートフォンでの G メールの受信」，「Classroom へのログイン」を中心とし，前年の様な急な自宅待機期間が生じた際にも，教員と学生間で双方向の連絡が行えるよう，基本的な設定を中心に解説を行った。

全学共通科目で中心的に使用する Moodle については図３の資料の通り，「ログインの手順」と，アプリと同様の手順で Moodle へのアクセスを行う為の「URL のホーム画面への登録」，また，「You Tube へのログインと視聴の手順」，「Moodle からの課題のダウンロードと提出」など多岐にわたる一連の手順について示している。特に，これまで Google のアプリケーションとの連携によって完結していた，ファイルの保存や変更については，OneDrive に保存するよう指導し，その保存方法やファイルの名称変更・管理までを詳細に解説している。図１から図３まで，学生に配布したすべての資料は，学生の中心的なデバイスであるスマートフォンの画面を使用し，特に利用者の多い iPhone に合わせて資料を作成した。また，2020 年度から学生より問い合わせのあった質問について取りまとめ，特に混乱の生じやすい，LMS とアプリケーションごとに異なる ID とパスワードについて

注意喚起を行っている（図４）。

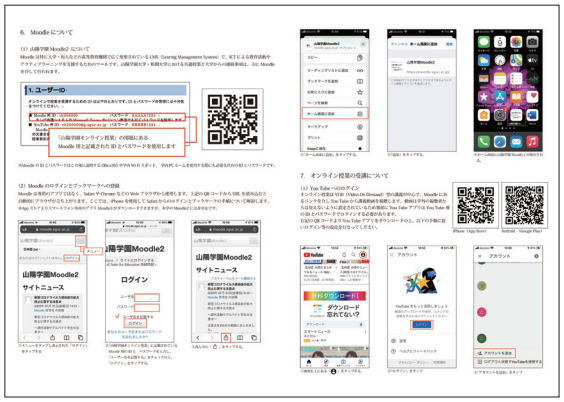

図3 Moodle の使用について示した資料

図4 学生からの問い合わせについての回答を示した資料

２．学生の自宅における通信環境実態調査−2020 年度との比較−

本学科では，昨年度の 2020 年４月，当時の在学生（１年生 81 名，２年生 69 名）を対象に自宅における通信環境の実態を把握するために質問紙調査を実施しており，同様の調査を 2021 年４月のオリエンテーション期間中に実施した。対象者は，１年生 72 名，２年生 77 名の合計 149 名である。質問紙では，学生が所有しているインターネット端末や主に使用している端末，自宅の通信環境，オンライン授業に移行した場合の懸念点について尋ねたほか，１年生には高校時代にオンライン授業を受けた経験を，２年生には昨年度のオンライン授業を受けての対応を尋ねている。

表１は，本学科の学生の自宅における通信環境について年度別に集計したものである。学生の所有するインターネット端末をみると，2020 年度調査と同様に，2021 年度調査においても「３．スマートフォン」の所有率が 98%以上と最も高く（問１），学生はメインで使用している（問２）。「１．ノートパソコン」，「５．タブレット」は，昨年度の調査結果と比較して所有率が高くなっており，特に１年生の 54.2%がノートパソコンを所有している（2020 年度 13.6%）。１年生については，27.8%が高校３年時に新型コロナウイルス感染症の対策としてオンライン授業を受けた経験が「１．ある」と回答しており（問６），岡山県の県立高校における 2021 年度以降の入学生を対象とした「生徒１人１台端末の環境実現」にむけて環境整備が進んだこと等も影響していると推察される。２年生については，オンライン授業をより円滑に受講するために端末を購入した学生もおり（問５），ノートパソコン所有率は昨年度の 13.6%から 40.3%に，タブレット端末の所有率も 9.9%から 23.4%に上昇しており，オンライン授業を受講する際に活用できる端末の幅が広がったことがわかる。

また，「仮に，短大のオンライン授業を自宅で視聴することになった場合，なにか困ることや心配なことがありますか。」との質問に対しては（問７），２年生では 85.7%の学生が「困ることや心配なことがない」と回答しており，昨年度の 66.3%から約 20%増加している。前述のように，２年生は自宅の通信環境が整った学生が増え，学生自身もオンライン授業に慣れたことが反映していると思われる。一方，１年生については，困ることや心配なことが「ない」と回答した学生は 47.2%に留まっており，半数以上の学生が短大での

表1　オンライン授業に関する各質問項目に対する学生の回答（年度別）（%）

	2021年度			2020年度		
	1年生	2年生	合計	1年生	2年生	合計
	n=72	n=77	n=149	n=81	n=52	n=133
問１．以下のインターネット端末のうち，あなたが持っているものすべてに○をつけてください（家族と共用のものは除く）。						
１．ノートパソコン	54.2	40.3	50.0	13.6	26.9	18.8
２．デスクトップパソコン	9.7	5.2	7.4	2.5	3.8	3.0
３．スマートフォン	98.6	98.7	98.7	98.8	98.1	98.5
４．携帯電話（ガラケー）	2.8	2.6	2.7	1.2	1.9	1.5
５．タブレット（iPad，Surfaceなど）	16.7	23.4	20.1	9.9	11.5	10.5
６．iPod touch	0.0	6.5	3.4	8.6	1.9	6.0
「３．スマートフォン」のみ所有	33.3	46.8	40.3	74.1	61.5	69.2
問２．あなたがメインで使っているインターネット端末は，上記のうちどれですか。						
１．ノートパソコン	2.8	1.3	2.0	0.0	0.0	0.0
３．スマートフォン	94.4	98.7	96.6	98.8	94.2	97.0
４．携帯電話（ガラケー）	1.4	0.0	0.7	1.2	1.9	1.5
問３．自宅には，通信料を気にせずにあなたが自由に使用できるインターネット環境がありますか。						
１．ある	95.8	93.5	94.6	86.4	90.4	88.0
２．ない	4.2	6.5	5.4	13.6	9.6	12.0
問４．【問３で「ある」と回答した人のみ】自宅のインターネット環境は，動画をスムーズに視聴できますか。						
１．はい	79.7	81.7	80.7	94.2	83.0	89.7
２．どちらともいえない	20.3	16.9	18.6	5.8	17.0	10.3
３．いいえ	0.0	1.4	0.7	0.0	0.0	0.0
問５．【2021年度２年生のみ】昨年度のオンライン授業をより円滑に受講するために，あなたが対応したこととしてあてはまるも						
をすべて選択してください。						
１．特に対応したことはない		72.4				
２．PCを購入した		10.5				
３．タブレットを購入した		2.6				
４．自宅の通信環境を整えた		6.6				
５．スマホやタブレットで使用できる通信料を増量した		11.8				
問６．【2021年度１年生のみ】新型コロナウイルス感染症の対応として，オンライン授業を受けたことがありますか。						
１．ある	27.8					
２．ない	72.2					
問７．仮に，短大のオンライン授業を自宅で視聴することになった場合、なにか困ることや心配なことがありますか。						
１．ない	47.2	85.7	67.1	66.3	59.6	63.6
２．ある	6.9	6.5	6.7	26.3	26.9	26.5
３．わからない	45.8	7.8	26.2	7.5	13.5	9.8

オンライン授業に対して何らかの不安を抱いていることがわかる。

この結果を受けて，学生がオンライン授業をトラブルなく受講して課題を提出できるよう，学科としてⅡ－１で述べた対応を行った。

３．本学科におけるオンライン授業の実施状況

前述の通り，2021 度は，主に Classroom と Moodle を併用して VOD 授業を配信したほか，Zoom を使用したリアルタイム講義も行われた。以下，本稿執筆時が 2021 年度後期の授業期間中であったことから，2021 年前期のオンライン授業の実施状況を，2020 年度の調査結果[3)]と比較しながら報告する（表２）。

まず，2021 度前期のオンライン授業実施率（全授業回数に占めるオンライン授業の実施回数の割合）は全体で 41.9%であり，2020 年度（46.5%）と大差はない。授業形態別にみると，2021 年度の講義科目のオンライン授業実施率は 53.3%，演習科目は 34.2%である。講義科目のオンライン授業実施率が 2020 年度（75.8%）より 20%以上低下した点につい

表2　2021 年度前期のオンライン授業実施率

		オンライン授業の割合（科目数）			
		全科目	講義科目のみ	演習科目のみ	講義・実技科目のみ
2021年度前期	全体	41.9%（27）	53.3%（12）	34.2%（ 14）	20.0%（ 1）
	1年生	50.5%（14）	56.7%（10）	40.0%（ 3）	20.0%（ 1）
	2年生	33.3%（13）	36.7%（ 2）	31.8%（11）	―
2020年度	全体	46.5%（57）	75.8%（19）	34.6%（36）	0.0%（ 2）

※学外実習は除く。また，2021年度前期は通年科目は除く。

ては，今年度前期の全面オンライン化または講義科目の原則オンライン化の期間が昨年度より短期間であったことが大きい。

この結果を学年別にみると，講義科目のオンライン授業実施率は，１年生の 56.7%に対して２年生は 36.7%と低く，演習科目も同様の傾向が伺える。２年生は，昨年度の約半分の授業がオンラインで行われただけではなく，児童福祉施設等での 10 日間の宿泊実習である「施設実習Ⅰ」は学内演習に切り替わり（うち約９割の演習はオンラインで配信），「教育実習Ⅰ（観察）」は期間を短縮して実施するなど，保育現場での実習機会が十分に確保できなかった学年である。今年度は前期終了後に保育所等での 20 日間の「保育所実習Ⅰ・Ⅱ」が控えており，さらに２年コース[注1)]の学生は前期中に３週間の「教育実習Ⅱ（総合）」を履修することから，講義科目であっても例年以上に実習で役立つ実践的な授業内容やアクティブラーニングを取り入れた授業が計画されていた。また，本学の対応として，新型コロナウイルス感染対策を優先した教室の確保を行っていたこともあって，学生の学習効果上，２年生科目で対面授業がより多く実施されたと考えられる。

Ⅲ．オンライン授業に関する学生調査

１．目的と方法

本調査は，オンライン授業に対する学生の意見等を集約し，本学科のオンライン授業の現状を把握することや，授業改善へ活用することを目的とし，本学科の学生（１年生 72 名，２年生 81 名）を対象に調査を実施した。調査は，Google が提供する調査作成および管理のためのソフトウェアである Google フォームを使用したオンライン調査とした。調査時期は，2021 年度前期の授業がすべて終了した 2021 年８月３日であり，有効回答数は 133（１年生 67，２年生 66），有効回答率は 86.9%であった。

オンライン授業への取り組みの初年度であった 2020 年度の調査結果[3)]と比較し，今年度の学生の傾向をより明確に読み取るため，昨年度と同じ質問項目で実施した。なお，本研究における調査は，昨年度に引き続き，学生の通信状況やオンライン授業の問題点を早期に発見し，問題解決に繋げる目的も含んでいたため，回答者を特定できる設定の下で回答を求めた。調査対象である学生には，調査への回答は完全に任意であること，調査協力の有無により不利益は生じないことを口頭にて説明した。

２．結果および考察

１）全体的傾向

各質問項目に対する学生の回答を年度別に表３に示す。なお，表３の 2020 年度の数値

は，2020 年度後期授業終了後に，当時の本学科１年生と２年生を対象に調査したもの[3)]である。

問１より，2020 年度と同様，本学科の学生は主にスマートフォンを用いてオンライン授業を受講していたことが明らかとなった。しかし，2021 年度は PC でオンライン授業を受講した学生の割合が，2020 年度よりも 15.8 ポイント増加した。前章の「学生の自宅における通信環境実態調査」において，2021 年度の PC 所有率が前年と比較して上昇していたことが明らかとなっており，本調査項目の結果と関連していると考えられた。

問４より，オンライン授業に対する学生の全体的な満足度について，2021 年度では「２．ある程度満足」の割合が最も高く，「１．非常に満足」と「２．ある程度満足」を合計した肯定的な回答が 74.4%であった。2021 年度におけるオンライン授業に対する満足度は，2020 年度よりも高かったことが明らかとなった。

問５のオンライン授業への理解度について，2021 年度は 2020 年度と同じく「ある程度理解できた」と回答した割合が最も高かったが，「１．理解できた」と「２．ある程度理解できた」を合わせた割合が 2020 年度よりも高かった。

オンライン授業で困ったり不安に感じたりしたことを尋ねた問７について，2021 年度では，「７．課題がきちんと提出できているかわからない（54.8%）」，「２．集中力が続かない（38.9%）」，「６．課題が多い（38.1%）」の順に回答した割合が高かった。2020 年度でも同じ項目が上位を占めたが，2020 年度では「６．課題が多い」と回答した学生の割合が極めて高かった（69.9%）。本学では，2020 年度に引き続き，VOD によるオンライン授業の場合は，授業を配信するごとに出席確認のための課題を課すことになっている。2020 年度は，これら出席確認のための課題の対応に苦慮した学生が多かった[3)]ことから，2021 年度では各教員が課題の見直しを図り，その結果「６．課題が多い」と回答した学生の割合が 2020 年度から 2021 年度にかけて低下したのではないかと推察された。前述したとおり，本学科では年度初めにオンライン授業についての説明を行った。ここでは，オンラインツールの特徴やログインの手順，動画視聴や課題提出の手順に至るまで資料を用いて丁寧に説明したが，提出後の確認については詳細には触れなかった。このことが，2021 年度における「７．課題がきちんと提出できているかわからない」の回答割合の高さにつながった可能性も考えられ，次年度への改善につなげたい。

一方，対面授業で困ったり不安に感じたりしたことを尋ねたところ（問 12），2021 年度では，「11．授業中に意見や考えを求められる（指名される）（24.8%）」と回答した割合が最も高く，次いで「13．わからないときに復習しにくい（23.1%）」，「２．集中力が続かない（21.5%）」，「14．新型コロナウイルスに感染するリスクが高まる（21.5%）」の回答割合が高かった。

問８では，オンライン授業でよかったと思うことを尋ねたが，「１．自分のペースで学習できる」，「２．自宅で学習できる」，「６．何度も復習できる」の順に回答割合が高く，これは 2021 年度と 2020 年度で同様の傾向であった。ただ，「その他」を除くすべての項目について，2020 年度よりも 2021 年度の回答割合が高く，2021 年度では学生がオンライン授業のメリットを享受していることが伺えた。

一方，問 13 の対面授業でよかったと思うことについて，2021 年度では「２．オンライン授業よりも集中できる」と回答した学生の割合が最も高かった（42.4%）。次いで「６．

表3　年度別にみたオンライン授業に関する各質問項目に対する学生の回答

項　目	2021年度		2020年度	
	n	%	n	%
問1．主にどのような端末を利用してオンライン授業を受講していますか。				
1．PC	18	26.9	14	11.1
2．タブレット端末（iPad，Surface等）	4	6.0	6	4.8
3．スマートフォン	45	67.2	106	84.1
問2．オンライン授業を受講する際に主に利用している通信環境はどれですか。				
1．自宅や下宿等で契約しているインターネットやWi-Fi	60	89.6	106	84.1
2．モバイルWi-Fi	2	3.0	6	4.8
3．スマートフォン等のデータ通信（通信量制限あり）	2	3.0	8	6.3
4．スマートフォン等のデータ通信（通信量制限なし）	3	4.5	5	4.0
5．大学・短大のWi-Fi	0	0	1	0.8
問3．オンライン授業を受講する際の通信状態はどうですか。				
1．ストレスなく快適に通信できた。	53	79.1	78	60.5
2．時々途切れ，ストレスを感じることがあった。	12	17.9	44	34.1
3．かなり途切れ，とてもストレスを感じた。	1	1.5	5	3.9
4．その他	1	1.5	2	1.6
問4．オンライン授業に対するあなたの全体的な満足度として最もあてはまるものはどれですか。				
1．非常に満足	33	24.8	11	8.5
2．ある程度満足	66	49.6	44	34.1
3．どちらとも言えない	25	18.8	51	39.5
4．少し不満	7	5.3	18	14.0
5．非常に不満	2	1.5	5	3.9
問5．オンライン授業に対するあなたの理解度として最もあてはまるものはどれですか。				
1．理解できた	27	20.3	23	17.8
2．ある程度理解できた	69	51.9	45	34.9
3．どちらとも言えない	29	21.8	41	31.8
4．あまり理解できなかった	7	5.3	18	14.0
5．全く理解できなかった	1	0.8	2	1.6
問6．オンライン授業での「課題」に対して，授業担当者から何かしらのフィードバックがありましたか。				
1．すべての授業であった	12	9.0	5	3.9
2．多くの授業であった	41	30.8	15	11.8
3．一部の授業であった	75	56.4	101	79.5
4．フィードバックはなかった	5	3.8	6	4.7
問7．オンライン授業で困ったり不安に感じたりすることはありますか。（あてはまるもの3つまで）				
1．先生に質問しにくい	22	17.5	26	21.1
2．集中力が続かない	49	38.9	62	50.4
3．コンピュータやオンラインのツールの使い方がわからない	8	6.3	5	4.1
4．不定期にアップされる科目がある	11	8.7	7	5.7
5．通信環境が十分ではない	6	4.8	5	4.1
6．課題が多い	48	38.1	86	69.9
7．課題がきちんと提出できているかわからない	69	54.8	32	26.0
8．授業の教材がわかりにくい	9	7.1	8	6.5
9．オンライン授業に取り組む時間がない	2	1.6	14	11.4
10．勉強のペースがつかみにくい	21	16.7	27	22.0
11．学修時間が増える	4	3.2	6	4.9
12．友だちと一緒に学べず孤立感を感じる	9	7.1	2	1.6
13．人間関係に悩む	1	0.8	0	0
14．提出物や小テストのフィードバックがない	21	16.7	11	8.9
15．パソコンやプリンタなどの機器を持っていない	14	11.1	7	5.7
16．その他	3	2.4	1	0.8
問8．オンライン授業でよかったと思うことはありますか。（複数回答）				
1．自分のペースで学習できる	97	72.9	70	57.4
2．自宅で学習できる	87	65.4	68	55.7
3．教室より集中できる	19	14.3	10	8.2
4．教材がわかりやすい	4	3.0	0	0
5．授業がわかりやすい	7	5.3	3	2.5
6．何度も復習できる	68	51.1	45	36.9
7．先生に質問しやすい	5	3.8	2	1.6
8．配付資料や提出課題の管理がしやすい	8	6.0	6	4.9
9．コンピュータやオンラインのツールについて知識やスキルが高まる	13	9.8	3	2.5
10．その他	1	0.8	2	1.6

表3　年度別にみたオンライン授業に関する各質問項目に対する学生の回答（つづき）

項　目	2021年度 n	2021年度 %	2020年度 n	2020年度 %
問9. オンライン授業の配布資料について，タイプ別にオンライン授業の満足度を教えてください。				
①パワーポイントと同じ資料を配付				
1. 満足	87	65.4	58	45.3
2. やや満足	33	24.8	37	28.9
3. どちらともいえない	11	8.3	23	18.0
4. やや不満	1	0.8	6	4.7
5. 不満	1	0.8	4	3.1
②授業動画を視聴しながら書き込んでいく形式の資料を配付				
1. 満足	75	56.4	34	26.6
2. やや満足	35	26.3	40	31.3
3. どちらともいえない	21	15.8	39	30.5
4. やや不満	1	0.8	7	5.5
5. 不満	1	0.8	8	6.3
③配付資料なし				
1. 満足	8	6.0	7	5.5
2. やや満足	14	10.5	15	11.7
3. どちらともいえない	30	22.6	39	30.5
4. やや不満	47	35.3	25	19.5
5. 不満	34	25.6	42	32.8
問10. オンライン授業の動画の長さについて，あなたが最も取り組みやすいと感じたものはどれですか。				
1. １本（60分）の動画	29	21.8	17	13.6
2. ２本に分割された動画（30分×２本）	58	43.6	49	39.2
3. ３本に分割された動画(20分×３本)	46	34.6	53	42.4
4. その他	0	0	6	4.8
問11. オンライン授業動画への教員の映り込みについて，タイプ別にオンライン授業の満足度を教えてください。				
① パワーポイントに音声をつけただけの授業 （教員は映っていない）				
1. 満足	68	51.1	36	28.3
2. やや満足	31	23.3	29	22.8
3. どちらともいえない	30	22.6	51	40.2
4. やや不満	1	0.8	6	4.7
5. 不満	3	2.3	5	3.9
② 授業をしている教員が動画内に映っている授業				
1. 満足	32	25.8	24	19.4
2. やや満足	37	29.8	33	26.6
3. どちらともいえない	48	38.7	58	46.8
4. やや不満	4	3.2	5	4.0
5. 不満	3	2.4	4	3.2
問12. 対面授業で困ったり不安に感じたりすることはありますか。（あてはまるもの3つまで）				
1. 先生に質問しにくい	22	18.2	14	12.4
2. 集中力が続かない	26	21.5	25	22.1
3. 課題が多い	16	13.2	52	46.0
4. 授業の教材がわかりにくい	7	5.8	5	4.4
5. 勉強のペースがつかみにくい	10	8.3	11	9.7
6. 課題や小テストのフィードバックがない	6	5.0	0	0
7. 学修時間が増える	6	5.0	7	6.2
8. 人間関係に悩む	5	4.1	2	1.8
9. 周りの学生の授業態度（寝ている，私語をするなど）にストレスを感じる	13	10.7	7	6.2
10. グループ活動をしなくてはならない	12	9.9	17	15.0
11. 授業中に意見や考えを求められる（指名される）	30	24.8	28	24.8
12. 出席が重視される（時間通りに登校しなければならない，通学に時間がかかるなど）	19	15.7	24	21.2
13. わからないときに復習しにくい	28	23.1	20	17.7
14. 新型コロナウイルスに感染するリスクが高まる	26	21.5	23	20.4
15. その他	2	1.7	1	0.9
問13. 対面授業でよかったと思うことはありますか。（複数回答）				
1. 勉強のペースがつかみやすい	28	21.2	22	18.2
2. オンライン授業より集中できる	56	42.4	37	30.6
3. 教材がわかりやすい	16	12.1	11	9.1
4. 授業がわかりやすい	32	24.2	28	23.1
5. 先生に質問しやすい	38	28.8	33	27.3
6. 配布資料や提出課題の管理がしやすい	48	36.4	36	29.8
7. 他の学生に質問したり意見交換したりなど，交流ができる	47	35.6	46	38.0
8. 他の学生の意見や考えを知ることができる	38	28.8	29	24.0
9. 他の学生の実技や発表を見ることができる	22	16.7	22	18.2
10. その他	1	0.8	0	0

配付資料や提出課題の管理がしやすい（36.4%）」,「７．他の学生に質問したり意見交換したりなど，交流ができる（35.6%）」の順に割合が高かった。2020 年度では，順位は異なるものの，2021 年度と同じ項目が上位を占めた。また，オンライン授業のよかった点として学生が選択した項目はある程度限定されていたが（問８），対面授業のよかった点として学生が選択した項目にはばらつきがあった。

２）オンライン授業に関する調査−学年別比較−

（１）学年別比較

オンライン授業で学生が困ったり不安に感じたりしていることを学年別に図５に示す。１年生では「課題がきちんと提出できているかわからない」,「集中力が続かない」の回答割合が約６割と，高い値を示した。１年生では回答割合の高かった「集中力が続かない」は，２年生では回答割合が低く，一方，１年生では回答割合があまり高くなかった「提出物や小テストのフィードバックがない」は，２年生がオンライン授業の困りごととして選択した項目として３番目に多かった。これらのことから，オンライン授業に対する困りごとや心配ごとは，学年によって異なることが明らかとなった。

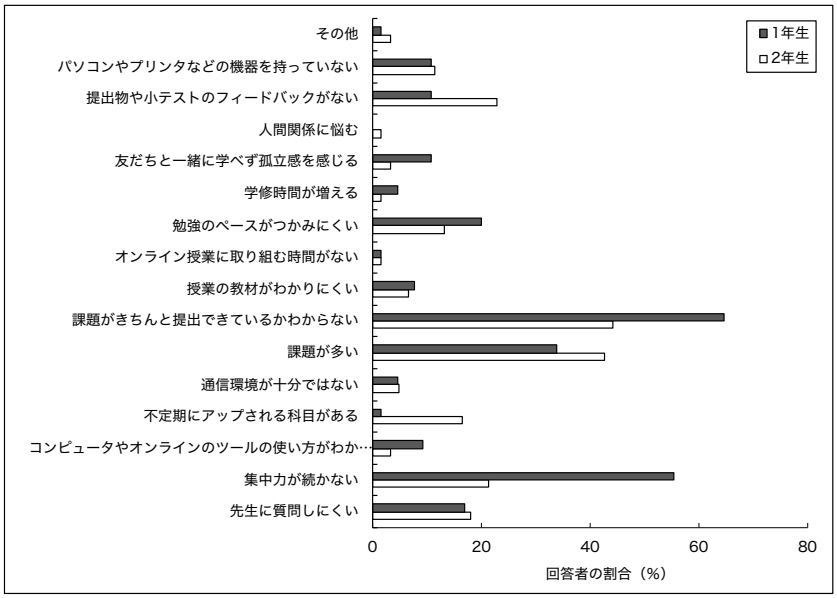

図5　オンライン授業で学生が困ったり不安に感じたりしたこと−学年比較−

オンライン授業に対して学生が肯定的に捉えている内容を学年別に図６に示す。１年生と２年生のいずれにおいても,「自分のペースで学習できる」,「自宅で学習できる」,「何度も復習できる」の回答割合が，他の項目に比べて極めて高く，この傾向は 2020 年度調査と同じであった[3)]。選択した学生の割合は低いものの，2021 年度調査では，多くの項目で１年生よりも２年生の回答割合が高かったことから，１年生よりも２年生のほうがオンライン授業に対して肯定的に捉えていることが推察された。このことは，１年生にとってオンライン授業の困りごととして２番目に回答割合の高かった「集中力が続かない」という項目について，２年生の回答割合は低く，オンライン授業のよかった点として「教室より集中できる」と回答した２年生の割合が１年生よりも高かったことからも伺えた。

対面授業で学生が困ったり不安に感じたりしていることを学年別に図７に示す。１年生では,「わからないときに復習しにくい」,「集中力が続かない」,「先生に質問しにくい」,「授業中に意見や考えを求められる（指名される）」の順に回答割合が高かった。

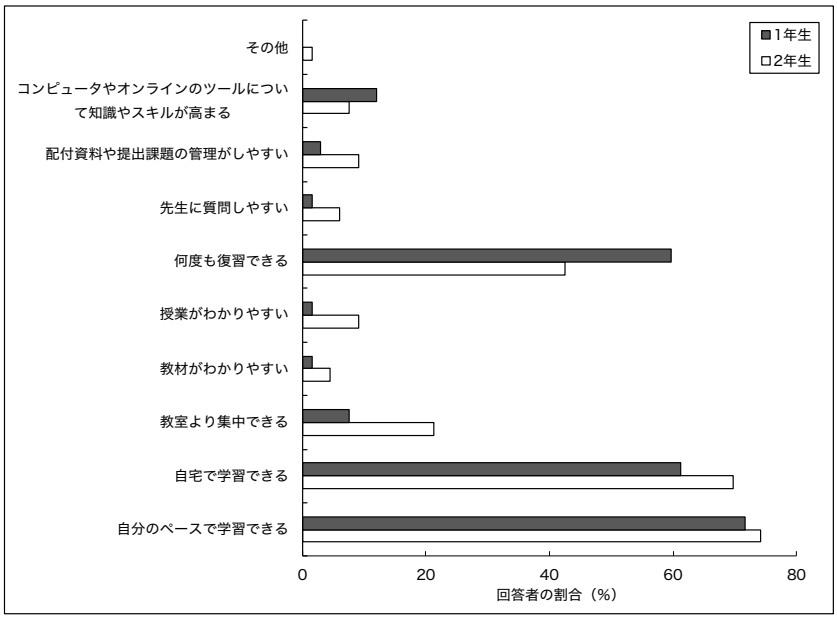

図6 オンライン授業で学生がよかったと感じたこと−学年比較−

一方，２年生では，「授業中に意見や考えを求められる（指名される）」，「新型コロナウイルスに感染するリスクが高まる」，「課題が多い」の順に回答割合が多く，オンライン授業と同様，対面授業についても困りごとや心配ごとは学年によって異なることが示唆された。特に，全15項目のうち，10項目について，１年生よりも２年生の回答割合が高く，１年生よりも２年生のほうが対面授業に対する困り感や不安感が高いように思われた。このことも，先に見たオンライン授業に対する２年生の肯定的認識と関連していると考えられた。

対面授業に対して学生が肯定的に捉えている内容を学年別に図８に示す。１年生が対面授業に対して肯定的に捉えている内容は，その回答割合が高い順に，「オンライン授業よりも集中できる」，「他の学生に質問したり意見交換したりなど，交流ができる」，「配付資料や提出課題の管理がしやすい」であり，「オンライン授業よりも集中できる」と回答した１年生は６割近くにのぼった。２年生では，「配付資料や提出課題の管理がしやすい」，「他の学生の意見や考えを知ることができる」，「他の学生の意見や考えを知ることができる」，「他の学生に質問したり意見交換したりなど，交流ができる」，「先生に質問しやすい」の順に回答割合が高かった。全体的にみると，対面授

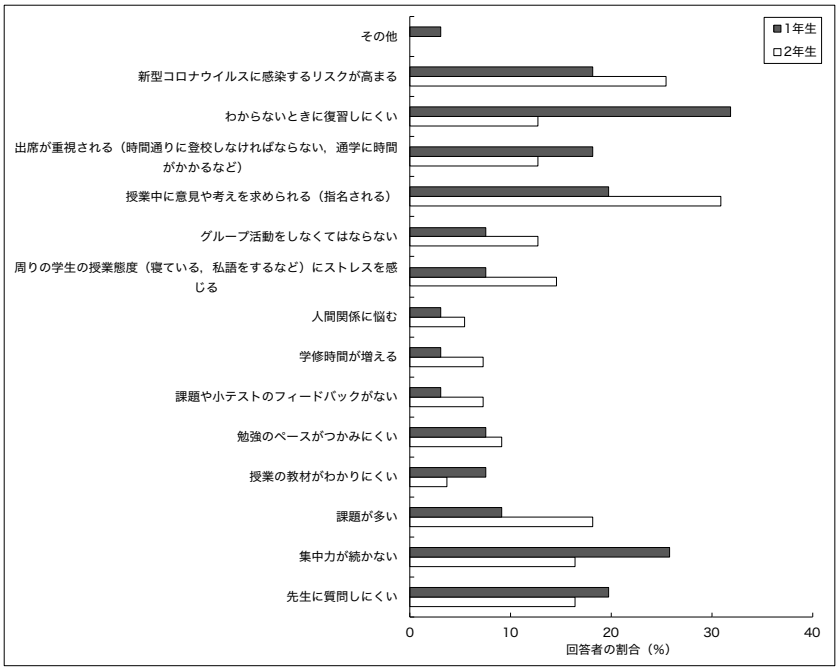

図7 対面授業で学生が困ったり不安に感じたりしたこと−学年比較−

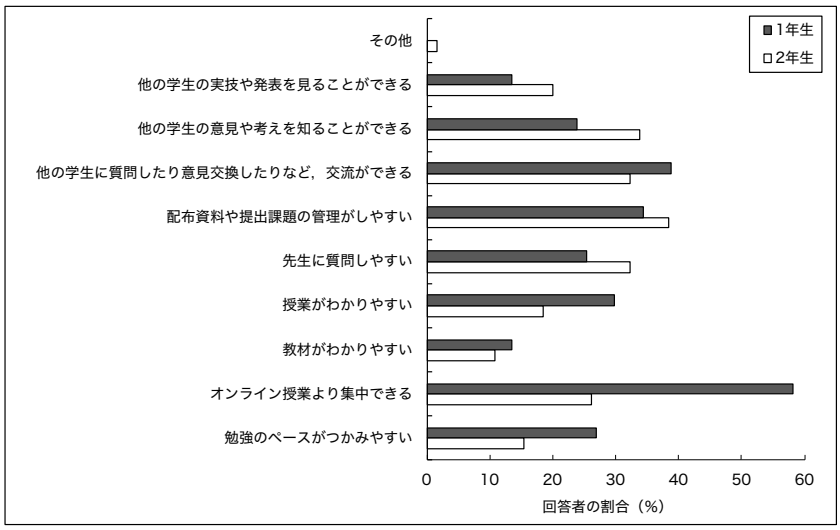

図8　対面授業で学生がよかったと感じたこと-学年比較-

業に対する肯定的認識に学年による大きな違いは認められず，対面授業は他の学生と交流できるという点について２学年で共通していた。

（2）２年生における１年時との比較

２年生は，オンライン授業実施の初年度であった2020年度と，２年目となった2021年度の両方のオンライン授業を経験した学生である。そこで，２年生の調査結果を１年時のものと比較することで，本学科が取り組んできたコロナ禍における授業について，学生がどのように捉えているのかを明らかにすることが可能と考えられる。なお，１年時から２年時にかけての変化をより明確に把握するために，１年時と２年時のいずれにおいても回答のあった61名を分析対象とした。

２年生のオンライン授業に対する全体的な満足度について，１年時と比較した結果，「非常に満足」，「ある程度満足」の回答割合が，１年時に54.1%であったものが２年時では78.7%となり，24.6ポイント上昇した。オンライン授業に対する理解度も，「理解できた」，「ある程度理解できた」を合わせた回答割合が，２年時では82.0%であり，１年時の60.7%を大きく上回った。

また，オンライン授業でよかったと思うことについて，１年時と比較した結果，１年時と２年時のいずれにおいても「自分のペースで学習できる」，「自宅で学習できる」，「何度も復習できる」の順に回答割合が高く，これら３つの選択肢に回答が集中した。このように，２年生が認識しているオンライン授業の肯定的な側面は，１年時から大きな変化はなかったことから，VODを中心としたオンライン授業の学生にとってのメリットは，上記の３つであると言える。このことに加えて，「何度も復習できる」を除く８項目全てで，１年時よりも２年時の回答割合が高かったことから，２年生が１年時よりも本学科のオンライン授業を肯定的に捉えていることが示唆された。２年生が受講したオンライン授業は，１年時と２年時とでは異なるため単純に比較はできないが，このような結果は，学生と教員の双方がオンライン授業という新たな授業形態に順応し，学生がオンライン授業のメリットを享受するゆとりが持てるようになったことを示しているように思われた。

一方で，対面授業で困ったり不安に感じたりすることについて１年時と２年時とで比較したところ，共通して回答割合が高かったのは，「授業中に意見や考えを求められる（指名される）」であった（１年時：31.6%で２位，２年時：30.9%で１位）。２年生のうち，約３割の学生が人前で自身の意見や考えを述べることに対して抵抗感を持っており，このこ

とが，先のオンライン授業に対する肯定的回答の多さにも繋がっているのかもしれない。

対面授業でよかったと思うことについて１年時と比較したところ，１年時では，「他の学生に質問したり意見交換したりなど，交流ができる（42.1%）」，「オンライン授業より集中できる（33.3%）」の順に回答割合が高かった。一方，２年時では，「配付資料や提出課題の管理がしやすい（38.5%）」，「他の学生の意見や考えを知ることができる（33.8%）」の順に回答割合が高く，学生が対面授業に対して認識している肯定的な側面は，１年時と２年時とで異なっていた。１年時に最も回答割合の高かった「他の学生に質問したり意見交換したりなど，交流ができる」は，今年度の１年生においても２番目に回答割合が高かった（図８）ことから，この結果は，新たな環境で新たな人間関係を作っていく必要性の高い１年生にとって，友人と直接交流することの重要性と必要性を示していると思われた。

３）本学オンライン授業および対面授業についての学生意見−自由記述より−

本研究で実施した調査には，「オンライン授業と対面授業についての感想や意見を，学生に自由に記述してもらえるような欄を設けていた。質問に回答した 133 名の学生のうち，87 名（１年生 49 名，２年生 38 名）が自由記述欄に自身の感想や意見を記入し，その多くが，オンライン授業と対面授業のどちらが良いか（悪いか）について言及したものであった。特に，このような記述は１年生に多く，「オンライン授業よりも対面授業のほうが良い」とした記述が目立った。例えば，「個人的に１人で学習するよりみんなと学習するというところに安心感があるため対面授業が良い」，「オンラインではなかなか友達とも会えずに一人学習が多くとても不安だった」などである。このような記述が示すとおり，学生の中でもとりわけ新入生にとって，他の学生と直接的に交流できる対面授業が果たす役割は大きい。公益財団法人大学基準協会大学評価研究所は，オンライン教育を巡る現状を明らかにするために，全国の大学に質問紙調査を行い，2020 年度の新入生がキャンパスに入れないことにより，人間関係を構築することの困難があったことを報告している[4)]。友人からの情緒的なサポートは，新入生にとって，大学適応に特に重要である[5)]ことや，教員とのコミュニケーションが学習意欲に影響を与え，友人とのコミュニケーションが大学生活の充実感に影響を与える可能性が指摘されている[6)]ことからも，新入生へのオンライン授業の実施にあたっては，学生間の交流機会の工夫や，教員によるサポートをより一層充実させる必要がある。

また，Ⅱでも述べたとおり，2021 年度からは，Classroom と Moodle，２種類の LMS を運用することとなったが，１年生の自由記述の中には「Moodle とクラスルームのふたつを使ってやるから（課題を）提出するとき大変だった」という意見も散見された。年度始めに対面による説明会を実施できたことで，オンライン授業への移行に対する大きな混乱は回避できたものの，科目によって配信ツールが異なることは，機器操作に不慣れな本学科の学生にとっては切実な困りごとであったことが伺えた。

Ⅳ．オンライン授業に関する教員調査

１．目的と方法

本調査は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のために実施したオンライン授業について，教員側の現状と課題を明らかにすることを目的とした。調査対象者は，2020 年度後期

においてオンライン授業を実施した本学科の専任教員７名と，非常勤講師５名の合計 12 名であった。調査対象者には，調査の目的や，回答は任意であることなどを口頭および書面にて個別に説明し，後期授業が概ね終了した 2020 年 12 月下旬に実施した。有効回答数は 11，有効回答率は 91.7%であった。

２．結果および考察

教員調査の結果を表４に示す。問１より，オンライン授業実施の初年度に約半数の教員が教材を作り直しており，「３．その他」と回答した教員の中には「対面授業ではパワーポイントを使用しないため，オンライン授業用にすべて作成した」という回答も見られた。このことから，オンライン授業の実施にあたっては，対面授業時とは異なる労力が教員側に必要だったことが伺えた。これは，問２の「対面授業に比べて，オンライン授業を実施するにあたり，困ったり大変だと感じたりしたこと」として，半数の教員が「３．オンライン授業のための教材作成」と回答したこととも関連していると思われた。同じくオンライン授業の困りごととして，半数の教員が「15．学生同士の学び合いの機会が作れない」ことと回答した。多くの学生が，他の学生の意見や考えを知れることや，他の学生と交流できることが対面授業の良い面であると感じていた（図８）ことから，教員と学生の意見は一致しており，オンライン授業における学生間の交流機会の工夫は今後の大きな課題である。

「オンライン授業を作成するにあたり工夫したこと」については，「２．映像の見やすさ」（90.9%）と「３．聞き取りやすさ」（63.6%）に回答が集中した一方で，「オンライン授業を実施するにあたり工夫したこと」については，教員の回答はばらついた。しかし，いずれの問いにおいても「１．工夫したことは特にない」と回答した教員はおらず，問１の回答と合わせても，オンライン授業の実施に際しては各教員の模索と工夫が伺えた。

「オンライン授業でよかったと思うこと」として，最も回答率が高かったのは「10．新型コロナウイルスへの感染リスクを減らすことができる」（63.6%）であり，「６．予期せぬ災害時にも授業を継続して行うことができる」（45.5%）がこれに続いた。本学科では，新型コロナウイルス感染症拡大防止策として，オンライン授業に初めて取り組んだ教員がほとんどであったため，このような結果は当然かと思われた。新型コロナウイルス感染症拡大防止として実施したオンライン授業ではあったが，オンライン授業で得たスキルや使用したツールを今後も活用したいと考える教員は８割を超えた（問６）ことから，授業実施形態の選択の幅が広がったことは，オンライン授業を経験したことによる大きな成果であろう。

Ⅴ．まとめと今後の課題

本稿では，短期大学の保育者養成課程におけるオンライン授業への取り組みを概観するとともに，学生及び教員への調査結果を基に，本学のオンライン授業の状況と今後の課題を明らかにした。

本学科は，昨年度は学科内で LMS を Classroom に統一して VOD 授業や学生生活に係る情報を集約して発信してきたが，今年度は LMS を Moodle に統一する学内の方針が強化され，Classroom と Moodle の２種類の LMS を運用することとなり，学生にとって使

表4　2020 年度オンライン授業に関する各質問項目に対する教員の回答

項　　目	n	%
問1．オンライン授業の教材については通常時と比べどのように対応しましたか。		
1．通常の授業とおおむね同じスライドを使用した	2	18.2
2．オンライン授業向けに大部分を作り直した	5	45.5
3．その他	4	36.4
問2．対面授業に比べて，オンライン授業を実施するにあたり，困ったり大変だと感じたことはなんですか。（あてはまるもの3つまで）		
1．困ったり大変だと感じたことは特にない	0	0
2．授業構成の再考	2	20.0
3．オンライン授業のための教材作成	5	50.0
4．PCやマイク等の環境整備	1	10.0
5．PCやオンラインツールの操作	2	20.0
6．教材の著作権への対応	1	10.0
7．学生の出欠管理	1	10.0
8．課題未提出者への指導	1	10.0
9．提出物の確認	1	10.0
10．学生の通信環境やツールに関する質問への対応	0	0
11．PC環境の問題を抱えている学生がいる	1	10.0
12．授業に対する学生の反応がわからない	3	30.0
13．学生の理解度を確認しにくい	4	40.0
14．学生と関係を作りにくい	2	20.0
15．学生同士の学び合いの機会が作れない	5	50.0
16．学生がじっくり考える時間を作りにくい	0	0
17．その他	1	10.0
問3．オンライン授業でよかったと思うことはありますか。（あてはまるもの3つまで）		
1．よかったと感じたことは特にない	2	18.2
2．PCやオンラインのツールについて知識やスキルが高まる	3	27.3
3．復習の手間が省ける	0	0
4．板書の手間が省ける	0	0
5．資料配布の手間が省ける	0	0
6．予期せぬ災害時にも授業を継続して行うことができる	5	45.5
7．提出物の管理がしやすい	0	0
8．大人数で同時に授業ができる	1	9.1
9．一度作成しておけば再利用できる	2	18.2
10．新型コロナウイルスへの感染リスクを減らすことができる	7	63.6
11．その他	3	27.3
問4．オンライン授業を作成するにあたり，対面授業と比べて工夫したことはありますか。（あてはまるもの3つまで）		
1．工夫したことは特にない（対面授業と同様）	0	0
2．映像の見やすさ	10	90.9
3．聞き取りやすさ	7	63.6
4．質問のしやすさ	0	0
5．授業や教員への親近感	2	18.2
6．教員の表情やジェスチャーを見せる	2	18.2
7．配布資料のアップロード	0	0
8．授業動画の分割配信	3	27.3
9．学生へのフィードバック	0	0
10．その他	2	18.2
問5．オンライン授業を実施するにあたり，工夫したことはありますか。（あてはまるもの3つまで）		
1．工夫したことは特にない	0	0
2．授業目標の到達	4	36.4
3．学生の理解のペース	5	45.5
4．学修活動（演習時間）の確保	3	27.3
5．集中力の持続	2	18.2
6．修学支援を必要とする学生への対応	2	18.2
7．モチベーションの維持	1	9.1
8．能動性（積極性）の維持	3	27.3
9．その他	1	9.1
問6．オンライン授業で得たスキルや使用したツールを今後も活用したいと思いますか。		
1．積極的に活用したい	3	27.3
2．必要に応じて活用したい	6	54.5
3．あまり活用したくない	1	9.1
4．活用したくない	1	9.1

い勝手の良いオンライン授業の環境ではなかった。そのため，学生のオンライン授業への不安を軽減し，スムーズに受講できるように支援体制を整えたうえで対応にあたった。とはいえ，新型コロナウイルス感染者数の再拡大の状況を鑑みてオンライン授業に切り替えながら学修を継続することは，学生と教員の双方にとって気の抜けない日々であった。

学生調査の結果からは,「自分のペースで学習できる」,「何度も復習できる」といったオンライン授業のメリットを享受している学生の割合が増加した一方で，学生が課題の提出状況を十分に把握できていないことや，提出課題に対して教員からのフィードバックが少ないといった課題が浮き彫りになった。提出物が受理されたかがわからず，そのフィードバックがないということは,学生の学習へのモチベーションに影響する重大な問題である。

また，学生調査と教員調査の結果より,「オンライン授業における学生間の交流機会の工夫」が今後の大きな課題であることも明らかになった。教員は,「授業を定期的に配信し，学生の学習機会を保障する」という段階から,「対面授業とオンライン授業双方のメリットとデメリットを理解して，授業の充実を図る」段階に移行して授業を運営することが求められている。学生の学習意欲を高め，主体的な学習参加を促す授業を行うためには，物理的な環境整備のほか，機器の操作に不慣れな教員に対する技術支援，オンライン授業を充実させるための研修会の開催等を継続的に実施していくことが望まれてならない。

注1）筆者らの所属する学科では，2020 年度入学生から，２年間で幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得を目指す「２年コース」か，長期履修制度を利用してゆとりをもって学ぶ「３年コース」を出願時に選択することができる。

引用･参考文献

1）文部科学省(2021).「令和３年度の大学等における授業の実施と新型コロナウイルス感染症への対策等に係る留意事項について（周知)」 https://www.mext.go.jp/content/20210305-mxt_kouhou01-000004520-02.pdf（2022 年 1 月 3 日確認）

2）「大学教育どうなる、大学や学生間の格差は　一線の研究者の思いを実名で紹介　新型コロナ教員アンケート」毎日新聞オンライン 2020 年 5 月 9 日 https://mainichi.jp/articles/20200509/k00/00m/040/032000c（2021 年 12 月 30 日確認）

3）権田あずさ・児玉太一・岡田典子・谷村紀彰(2020). 保育者養成課程におけるオンライン授業への取り組み. 山陽論叢, 27,189-204.

4）公益財団法人大学基準協会大学評価研究所 効果的オンライン教育のあり方と評価基準･視点に関する調査研究部会(2021). 効果的オンライン教育のあり方と評価基準・視点に関する調査研究報告書.

5）Azmitia, M., Syed, M., & Radmacher, K. (2013). Finding your niche: Identity and emotional support in emerg- ing adults' adjustment to the transition to college. Journal of Research on Adolescence, 23, 744-761.

6）見舘好隆・永井政洋・北澤武・上野淳(2008). 大学生の学習意欲，大学生活満足度を規定する要因について. 日本教育工学学会論文誌, 32, 189-196.